

## 巻頭言

教育学習支援センター所長 鳩貝 耕一

1951年に開学して以来、人物教育を中心に据え本学は発展してきました。在学中の40年余りをふり返ってみても、本学では教員と学生との距離が近く、私自身、人格の触れ合いの中で成長していったものと考えています。当時は、当然のことながらアクティブ・ラーニングなどという言葉はありませんでしたが、学びの転換、すなわち受動的な学習態度から「能動的な学習態度に変わらねば！」と意識し始めたのが2年生の時でした。

さて、当センターが活動を開始してから早5年となりますが、株式会社大学通信の2020年「面倒見が良い大学ランキング2019（近畿編）」5位に本学がランキングしています。「5位の甲南大は、専門教育と並行して、多様な教養を身につける学部横断型の共通教育科目が充実させていることが特徴だ。『共通基礎演習』は、全学部の1年次全員が少人数のグループに分かれて受講する。高校までの受動的な勉強から大学での主体的な学びにスムーズに移行できるようになっている」と画像とともに紹介されています。画像にはラーニング・アシスタント（LA）も写っていて、地味ではありますが学生が本学の様々な授業を支えていることに当センターとしても後喜しています。

一方では、教員の教育改善についての地道な努力も本学の特徴の一つであり、本紀要にはそのノウハウが研究成果として集約されています。本年度は、新型コロナ禍の影響でWeb活用授業等への対応が大変だったにもかかわらず、例年と同様、多数の寄稿がありました。投稿していただいた先生方に感謝するとともに、他の先生方にも本紀要への投稿を検討していただけるようお願い申し上げます。

昨年度までの紀要編集委員の経験を通じ、投稿された教育実践に関するご研究の成果の多くは、FD講演会等でぜひとも発表していただき、全学的に議論していくべきものだと考えています。このような活動を通じて、本学の教育活動の実践交流と質的发展に多いに寄与していけるならば幸いです。